
デジタルトラスト基盤戦略

2024年10月23日

慶應義塾大学
手塚 悟

デジタルトラスト基盤戦略

● 安倍総理(当時)の2019年ダボス会議における演説の概要



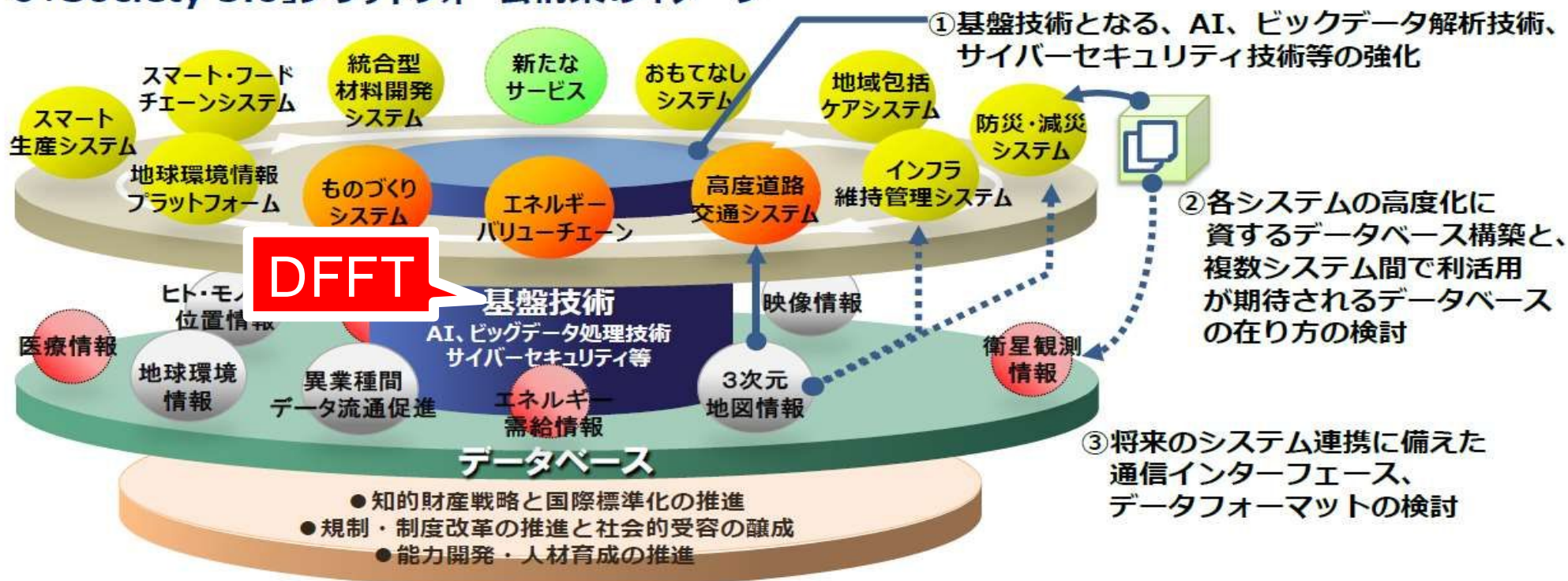
- データ・ガバナンスに焦点を当てて議論する場を、OECD（経済協力開発機構）の傘下で開始
- 第四次産業革命やSociety5.0を推進する新しい経済にとって、最重要の課題になるDFFT（Data Free Flow with Trust）の実施体制を構築
- 米国、欧州、日本、インドや、それに大きな飛躍を続けているアフリカ諸国が議論できる場を構築し、各国の努力と共に成功を共有

デジタルトラスト基盤戦略

● Society 5.0 (超スマート社会) プラットフォームイメージ

- 総合戦略2015で定めた11システムのうち「高度道路交通システム」「エネルギーバリューチェーンの最適化」「新たなものづくりシステム」をコアシステムとして開発。他システムと連携協調を図り、新たな価値を創出。
- 新たな価値・サービス創出の基となるデータベースを整備
- 基盤技術 (AI、ネットワーク技術、ビッグデータ解析技術等) の強化

● 「Society 5.0」プラットフォーム構築のイメージ



※今回取り上げたデータベースは参考例

デジタルトラスト基盤戦略

- 紙ベース基盤におけるアシュアランスレベル（監査、透明性、説明責任）
- 印鑑の機能は同じでも、アシュアランスレベルが認印、銀行印、実印で違う



- パブリックトラストの必要性：相互認証するときにスケーラブルにできる

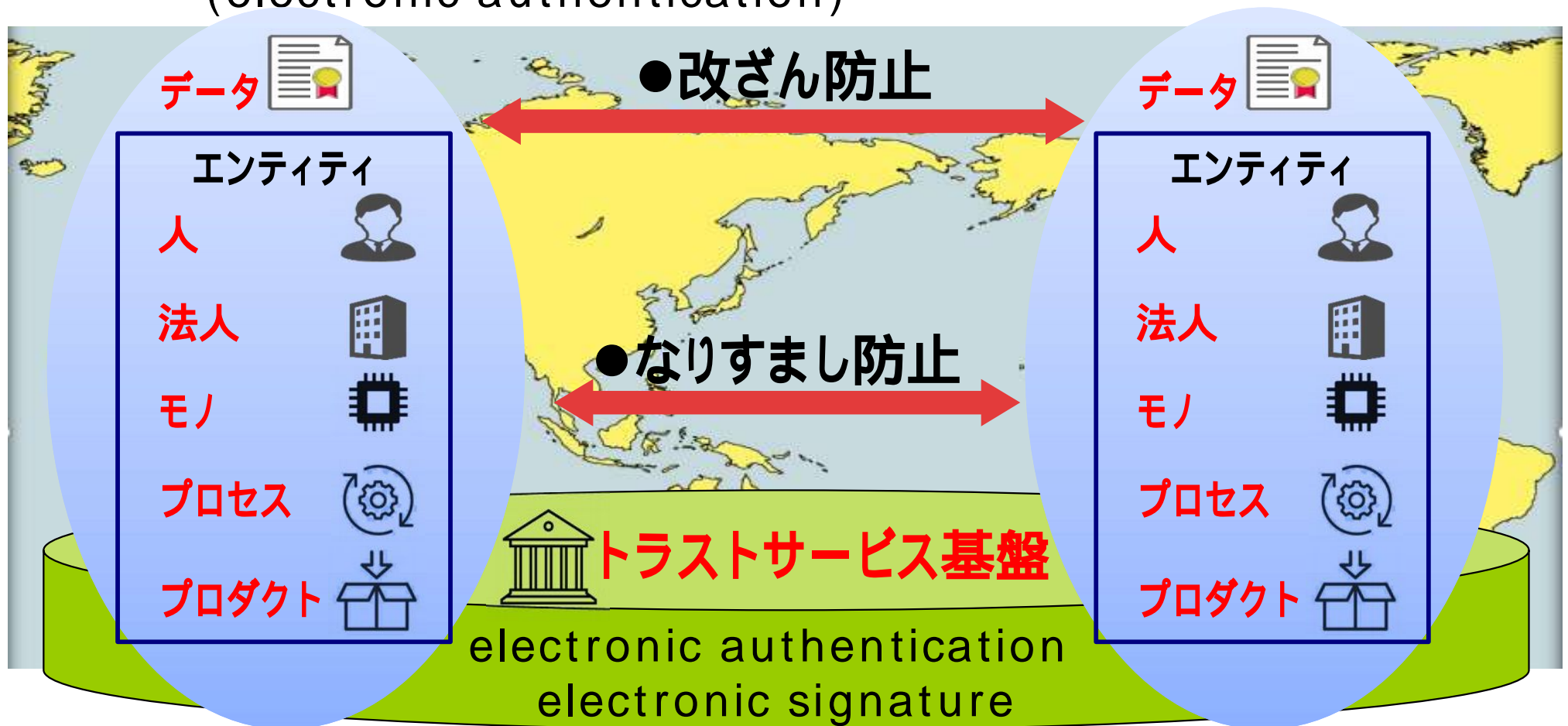
デジタルトラスト基盤戦略

- DFFTにおけるトラストサービス基盤

- サイバー空間は、データ・人・法人・モノ・プロセス・プロダクトから構成

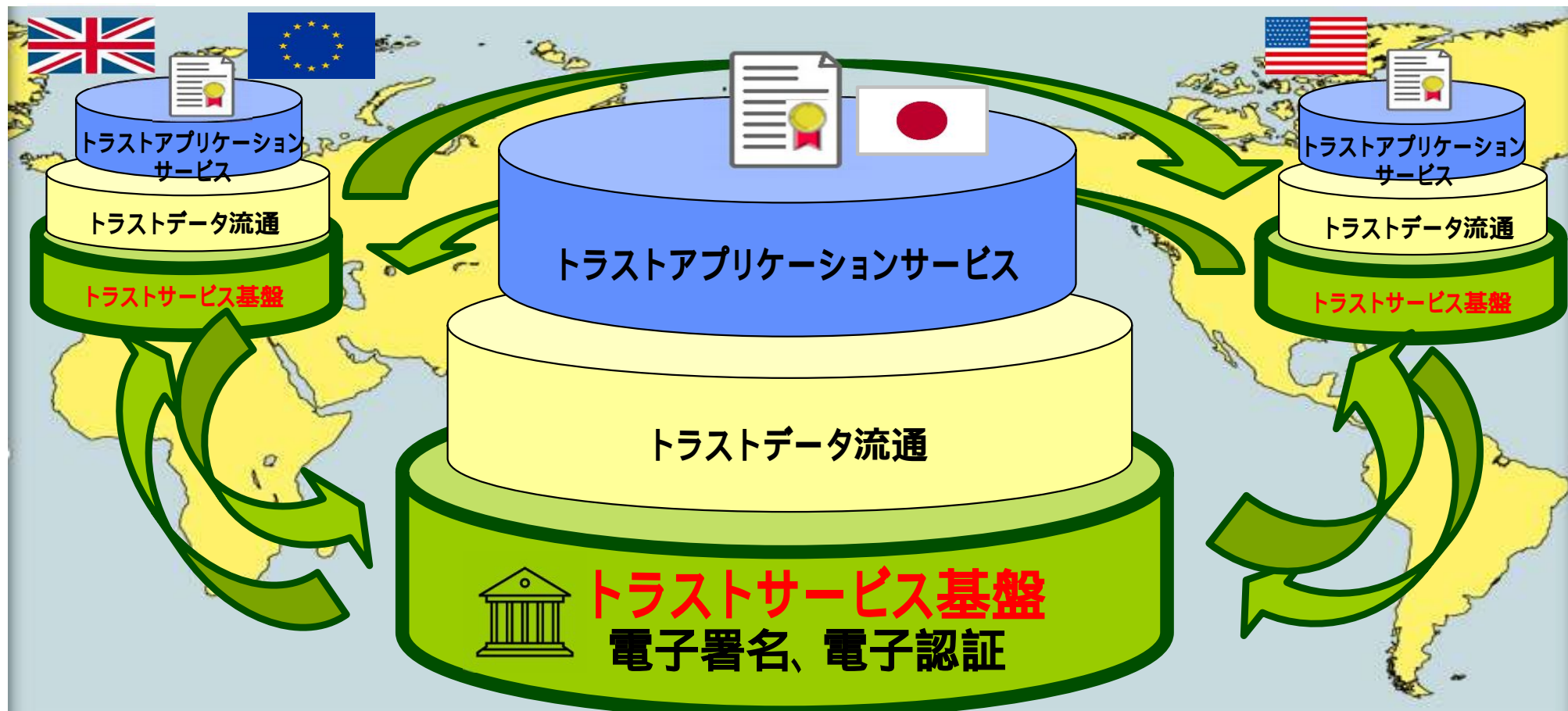
- データの改ざんを防ぐ電子署名 (electronic signature)

- 人・法人・モノ・プロセス・プロダクトのなりすましを防ぐ電子認証 (electronic authentication)



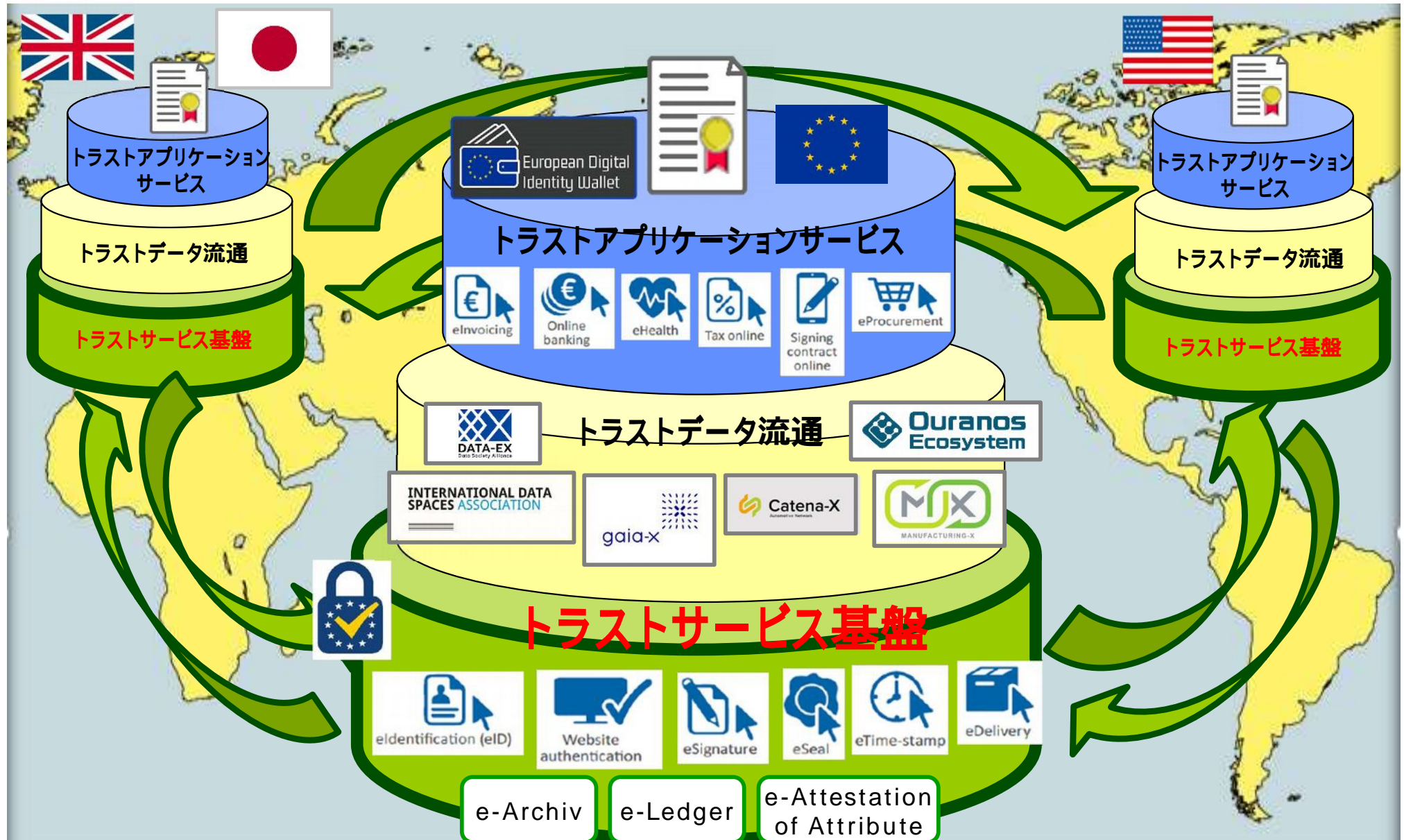
デジタルトラスト基盤戦略

- DFFTは、3層構造のアーキテクチャで実現する
 - トラストアプリケーションサービス層：データの入出力、データの活用をする
 - トラストデータ流通層：特定の相手と**安全に**データをやり取りする
 - トラストサービス層：改ざん防止/なりすまし防止等で**信頼性を確保**する
- トラストサービス基盤を、Multilateral(多国間) でつなげる



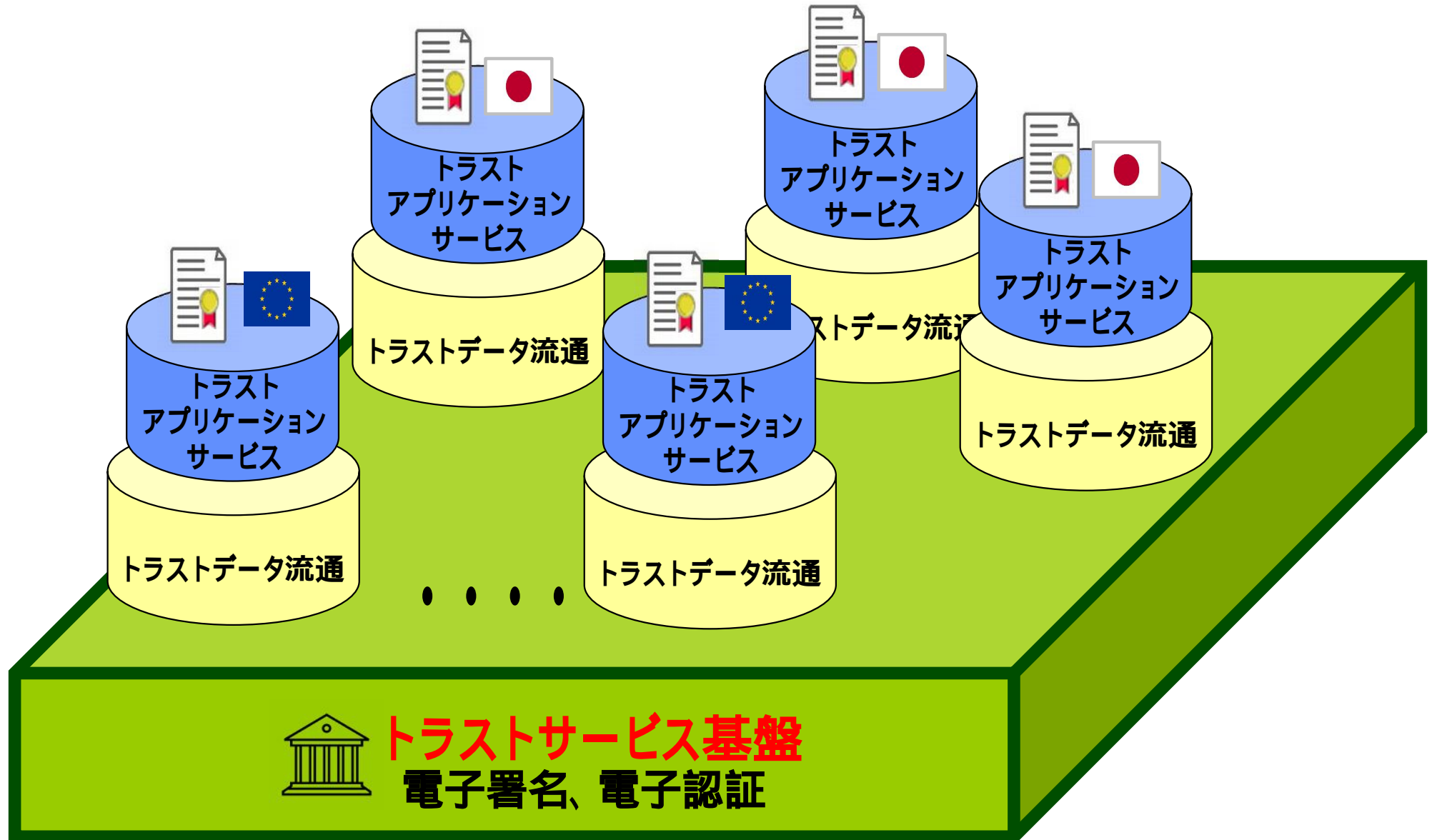
デジタルトラスト基盤戦略

●3層構造に、日本・EUの具体的な機能や組織をマッピング



デジタルトラスト基盤戦略

●分散型のデジタルトラスト



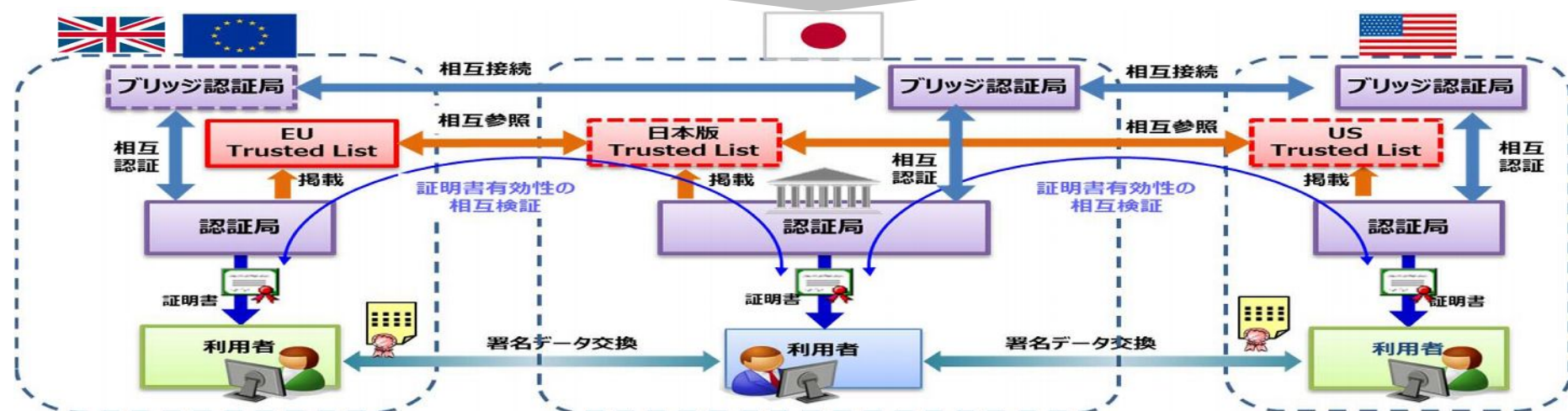
デジタルトラスト基盤戦略

● 国際相互認証の実現

- 国際間においてデータ・人・法人・モノ・プロセス・プロダクトの正当性を確認できるために、以下の4項目の同等性を検証する

項目	EU 	UK 	米国 	日本 
1 法制度	eIDAS	UK-eIDAS	大統領令13526	公的個人認証法 商業登記法 電子署名法
2 認定制度	EU委員会、加盟国の2段階	国	連邦政府	国
3 技術標準	ISO, ETSI	ISO	ISO, NIST	ISO, JIS
4 トラストアンカーチェーン	LoTL MS TL	UK TL	FBCA	政府BCA

課題を解決したあるべき姿



出典：第7回データ戦略タスクフォース資料1